

今日のみ言葉 2』2 「さまよいから魂の牧者のもとへ」 2015.7.10

イエスは十字架にかかって、わたしたちの罪をご自分の身に負われた。それは、私たちが罪に対して死んで、義に生きるためだった。

そのイエスが受けた傷によって、あなたがたは、いやされたのである。

あなた方は、羊のようにさまよっていたが、今は、魂の牧者であり、監督者である方のところへと戻ってきた。(1ペテロ2の24~25より)

He himself bore our sins in his body on the tree, so that we might die to sins and live for righteousness; by his wounds you have been healed.

For you were like sheep going astray, but now you have returned to the Shepherd and Overseer of your soul

人間はさまよっている。はるかな古代から、現代に至るまで、どのような民族、国家であっても、またいかに現代のように一部の欧米の国々のように福祉が整い、豊かとなっても、なお魂のさすらいは止まることがない。

若くで元気なときも、間違った道へと迷い込む危険は大きく、さまざまの快樂に引き込まれて大きく道を踏み外してしまうこともある。貧困であってもまた経済的に豊かであっても、人間はそれぞれにまた迷っている。

多くの日本人は死後もその魂がさまようと思っている。それゆえに、死者に供養をしてそのさまよいをとどめないと、生きている者たちにたたってくると思っている。

さらに、日本全体、世界もさまよいのただなかにある。どこに向っているのか、だれも本当のことはわからない。いかに科学技術や経済学、哲学を学ぼうとも、こうしたはてしなきさまよいは止めることができないのである。

そのような、どこまでも続くと思われる人間のさまよい、さすらいを根本的に止めるものはあるのだろうか。

それが、聖書に記されている神、キリストだけがそのようなさまようものをとどめ、揺らぐことのなきところへと導いてくださる。

さまよいの根源たる人間の自己中心、欲望中心の魂を方向転換して、壊れることなき真実と愛をもたれる神とキリストに立ち返るときに、私たちは初めて、そうした世界に満ちているさまよいの力から抜け出すことができる。

この世界には、どんな学者、政治家も真の牧者—導き手となることはできない。人間の学識や経験というものにはきわめておおきな限界をもっており、明日のことすらどうなるのかそうした学問をいくらおさめても確実なことはだれひとり言えないことからわかる。

すべてを見抜き、万物を創造し、かつ現在も支えておられる神だけがその愛をもって私たちの魂をみちびき、世界を導くお方なのである。

そしてその神を牧者とするためには、何らの能力も経験もいらない。ただ、いま、その場において、そのような神とその神が地上に送られたキリストを信じるだけでよいというのがキリスト教といわれる信仰なのである。

いまま神は万人にむかって、この神とキリストのもとに立ち返れ！ とたえず呼びかけておられる。



（右下は、赤岳頂上への道。ウコンウツギは右の写真を撮った少し手前の樹林帯にて。）

ウツギの仲間には、ウノハナとして歌にも歌われたウツギから、マルバウツギ、ヒメウツギ、バイカウツギなど（ユキノシタ科）、さらに、スイカズラ科にも、タニウツギ、ベニウツギ、ここであげたウコンウツギなど、別々の科に多くの種類があります。

この花は、日本では本州北部—岩手、青森の高山と北海道の高山にだけみられるウツギの仲間なので、大多数の人たちには、直接に見ることができない花です。

ウコン（その根茎は黄色い染料の原料、また、薬用、カレー粉などに使われる。）のような黄色の花ということでこの名があります。

これは、右の写真の赤岳頂上への道の少し下部にあり、徳島では聞いたことのない小鳥たちの澄んださえずりのある樹林帯の小さな谷沿いにてしずかに語りかけるように咲いていたものです。

この地上には、平地からこのような高山に至るまで、赤、白、青、青紫、ピンク、黄色等々、さまざまな色の花がある。それらの色彩が花のそれぞれ独特の姿、形とあいまって、人間の心に向けられて咲いているのを感じます。

私たちは、山々を覆う緑とそのなかにそびゆる樹木の力強さ、さらにそのなかに沈黙しつつ咲く美しい花々、また日あたりのよいところには別の多様な野草たち—と実に変化に富んだ植物たちに出会います。

それらすべては神の国の美と力と清さ、そしてその限りない多様性を指し示しているし、また神はそうしたさまざまのものによって現代の私たちにも語りかけておられます。

（文・写真ともT. YOSHIMURA）

